

福井・大野巡検

藤本典子

夏休みも終わりに近づく9月1日、東京駅始発の「ひかり」に乗り込み約4時間余り、私たち地理学科3年生の一行は福井に到着した。

福井は繊維産業が盛んであり、古くは絹織物で栄え、現在では合成繊維の一大産地である。初日、最初に訪れた福井県立博物館では、福井県の自然環境・社会環境に関する展示がフロアごとにあり、その中でも福井の繊維産業の流れが数々の展示品とともに説明しており、非常に興味深いものだった。

次に福井市役所都市計画課を訪問し、福井市の都市計画、とくに駅周辺の再開発についてのレクチャーをしていただいた。

そののち私たちは班行動にうつり、それぞれ市内で聞き取り調査を行った。私たちの班は、福井の繊維工業に興味を持っている人が多いため、織協会館に出かけた。突然何の連絡もなく押し掛けた失礼にも拘らず、職員の方は資料など出して下さり、私たちの質問にも快く答えてくださった。お話によると繊維産業は一般的には斜陽化していると言われているが、新合繊など新しい繊維の開発で福井の繊維工業はまだまだ発展の好材料があるようだ。が、一方ではほかの工業に転換していく零細繊維工場もあるという話であった。

2日目の早朝、福井市内から列車でおよそ1時間の福井市に行動の舞台を移した。豊かな自然に恵まれた場所で、日本名水百選にも選ばれたという『御清水』が地下からこんこんと湧き出ているすばらしい環境である。大野市役所水道課では、その地下水資源についてレクチャーしていただいた。また、古都を感じさせるこの土地にも、上下水道建設や工場誘引などをめぐって市民に考え方の対立があることを知った。

午後は、市内有数の繊維工場である稲山織物を見学した。工場内には多数の自動織機が並び、も

のすごい速さで布を織っていたのに驚いた。現在では、付加価値の高いスポーツウェアなども生産しているそうである。

その後の班別行動では、私たちの班は野田佳江氏宅を訪問した。野田氏は「水の会」という組織を運営し、地下水の現状調査など盛んに活動しており、私たちにも大野の地下水の大切さを切々と語ってくださった。

3日目は、早朝から名物の朝市に行き、売り手のおばあさんたちに聞き取り調査を行ったが、話に乗って新鮮な野菜を買い込んでしまった。別の班は、コンニャク製造の荒子商店を見学した。

JA大野では、大野の農業についてお話をしていただいた後、バスで移動しカントリーエレベーターを見学した。米だけでなく、里芋、イチゴなどが年間を通して収穫されるそうで、大野市の農業は健在であると感じた。

続いて南部酒造という造り酒屋を訪問し、土地の酒米と地下水を使った日本酒についてお話を伺った。他の班はその間に豆腐製造の田中食品、河原酢店、竹田醤油店に聞き取り調査を行なった。このように、大野市の産業は、工業、農業、食品製造など地下水に大きな重要性があることがわかった。

4日目は、越前打刃物、和紙、眼鏡会館と武生・鯖江の地場産業を見学した後解散となった。

巡検を通じて、大野の人々が自然に恵まれた豊かな環境に対して誇りを持っているのが印象的だった。しかし、その地下水も近年乱用によって減少し、さらに工場の建設などで汚染される恐れがあるという。自然環境保護と経済発展のバランスを円滑にとっていくことがいかに重要な課題であるか、地域住民と接することで具体的によくわかった。

(9月1～3日 杉谷教官指導)